



作並・回文の里 タイムス

【編集・発行】

仙台・作並回文の里づくり実行委員会
〒989-3431

仙台市青葉区作並字相ノ沢 27

JR 作並駅内宮城地区観光案内所内

電話 022-395-2052

発行者：委員長 森谷 寛

編集：事務局 佐藤照彦 相沢良雄

第15回日本ことば遊び回文コンテスト・交流大会

入賞作品決まる

回文の里ホームページは <http://kaibun.sakunami-spa.com/>

自由題の部最優秀賞、作並温泉賞を小池政光さんがダブル受賞

課題の部最優秀賞は荒井正生さんが手にする

【自由題の部】

●最優秀賞

なかむらさ な でんとう やごうい こやとうと はなさ
中村座 名は伝統と 屋号言う 小屋尊んで 花去らむかな

作者 千葉県 小池政光さん

●作並温泉賞

きしけいこく あき み くさ さあきた おおたき あさかす さくなみ
岸溪谷か 秋よ見な 草むすか さあ来た大滝 朝霞む作並

よ あか こい けしき
良き赤く濃い景色

作者 千葉県 小池政光さん

【課題の部】

●最優秀賞

かんばいよ う うめ した の うた
寒梅酔いしれ植えた梅の下でめでたし。飲め歌え。

作者 仙台市 荒井正生さん

自由題の最優秀賞と作並温泉賞は、いずれも千葉県在住の会社員小池政光さんの作品が選ばれました。自由題の部最優秀作品は、昨年11月1日～12月31日までに郵送により応募された585点と2月23日～24日にかけてLa楽リゾートホテルグリーン・グリーン(作並温泉)で行われた交流大会自由題の部に出品された45点を合わせた620点の頂点です。予備審査、第一次審査、第二次審査を抜け出て交流大会当日の最終審査での得票は83点という高得点でした。昨年惜しまれて他界した歌舞伎役者中村勘三郎さんの本拠である伝統的な中村座と氏の追悼を題材に作りあげた回文です。

作並温泉賞の作品は、紅葉赤く染まる作並の溪谷をバックに落ちる作並滝が朝霧に霞む風景を読み込んだもので58点を集めました。

課題の部(課題は、「復興」「梅」「青葉」)の最優秀作品は23日夜の一夜漬けの作品でしたが、仙台市の荒井さんが「梅」を用いて、名酒「寒



「國盛」の説明者は岐阜県の相撲さん

梅」も木の下で、その成長を祝って飲めや歌えの大賑わいの情景を見事にまとめました。大会には、大人と子ども合わせて44名が参加しました。

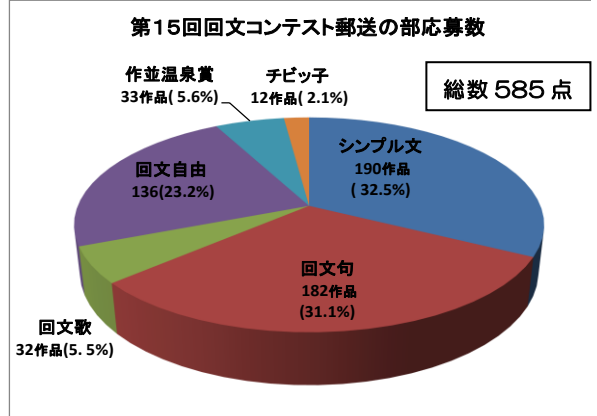
愛知県から初参加された杉原さんがお土産として名酒「國盛」を持参されました。国の繁栄を願い、それとともに我が酒の盛んなることを望む気持ちを込めて命名されたお酒です。

翌日午前7時まで提出の「課題作品」が出来上がった人もそうでない人も、深夜まで和やかにしゃべりながら飲みほしてしまいました。

そのほかの入賞作品は、回文の里ホームページに掲載したほか、「第15回日本ことば遊び回文コンテスト入選作品・応募作品集」で紹介しています。

今回の第15回日本ことば遊び回文コンテスト・交流大会郵送の部には、北は北海道、南は鹿児島県まで全国各地から昨年より166点少ない585点の応募がありました。各部門への応募状況は、シンプル文の部190点、句の部182点、歌の部32点、自由の部136点、作並温泉賞の部33点、チビツ子の部12点で、合計233人からの応募でした。

昨年12月31日に締め切られた応募作品は、1月13日行われた当実行委員会による予備審査で各部門50作品(歌の部と作並温泉賞の部は、応募数が50作未満、チビツ子の部も30作未満だった)で、それぞれ32作品と33作品、12作品)に絞り込まれました。次に2月23日(24日(1泊2日))の交流大会参加者と実行委員会委員による第一次審査で、各部門20作品程度



(チビツ子の部は10作品)程度に選考されたものが、2月23日午前中に行われた専門審査員6名による第二次審査で、最終審査に回わる各部門5作品が厳選されました。

そして、最終審査(専門審査員と交流大会参加者などの投票)で最後に残ったのが、回文の里ホームページに掲載の入賞作品です。

今回の応募では、地元作並小学校以外に、埼玉県川越市立福原中学校、愛知県春日井市立鷹来中学校から多数の応募がありました。

'13の交流大会もドリームマッチに沸きました

【成績・作品は次のとおり】

第一位 とんぼチーム
 第二位 かもしかチーム
 第三位 かえるチーム
 第四位 うぐいすチーム

◎第1試合 「山」の作品
 低い山 今や行く日(とんぼ)
 摩耶行く日 感慨眼下 低い山(かえる)
 春暖か 雪山今や消ゆか たたあるは(うぐいす)
 酒のやまのけさ(かもしか)

◎第2試合 「川」の作品
 長い川 若いかな(とんぼ)
 強い若の川 イヨツ(かえる)
 湯の河岸ける葉魚長狭春景色は華の湯(うぐいす)
 我が仲間 神奈川(かもしか)

◎第3試合 「旅」の作品
 夜行く旅ののびた 悔いるよ(とんぼ)
 旅の時 風音尾瀬か 帰途のびた(かえる)
 洋子、湯にひたる旅に行こうよ(うぐいす)
 君一人旅 左とび右(かもしか)

交流大会のアトラクションで、昨年に続いて参加者を4つのチームに分けて、ドリームマッチが行われました。

実行委員会から出題されたのは「山」「川」「旅」。この題を入れてチームで、1回10分以内で各チーム3つの回文を作りました。



第6回文かるた大会開催

1月28日(土)、仙台市宮城市民センターで回文かるた大会と回文教室を開催。小学生21名と一般成人8名、合計29名が参加しました。試合は、小学生が3人ずつ7チームに分かれて3回戦行い、合計の取札数で順位を決めました。試合後、岩松旅館か



女川町の3人の校長先生にかるたを贈呈

提供された特性の「回文鍋」で昼食を楽しみました。

徳永未来さんから寄贈された本の売上金をもとに、回文かるたを12ケース用意し、3月4日に女川町の小中学校に寄贈しました。

熱戦が続いたかるた大会



熱戦が続いたかるた大会